

令和6年度

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 学習支援	a 新「五つの心得」を作成し、基本的な学習態度を向上させるとともに、公開授業(授業研究会)を複数回開催して、生徒の見取り力を高める 目標:公開授業参観2回以上	新「五つの心得」として、「まなびの心得」を作成し、基本的な学習態度について強化週間で振り返ることができた。 ほぼすべての教員が公開授業を2回以上参観することができた。	公開授業週間に「まなびの心得」を意識した授業を行うことで、生徒、教員とも「まなびの心得」を定着させる。 「まなびの心得」強化週間の評価を生徒はグループフォームで自己評価を毎日行う。教員は授業ごとに生徒の様子を評価する。評価する項目を2つ程度にして「できた」「できなかった」で評価する。
	b DX推進のためのサポートを実施	各種アンケートや授業・行事等学校生活のあらゆる場面でサポートをすることができた。生徒がタブレットを使う際「情報の信憑性」や「著作権の侵害」「生成AIの限界」等について指導していくことも必要である。	情報の授業で生徒の「情報活用能力」(情報リテラシー)を向上していけるような教材の提供をし、サポートしていく。
	c ビブリオバトルを通して、読書習慣の啓発に努める 目標:年間図書貸出冊数を増やす	昨年度の貸出数が1,063冊。今年度12月の朝の読書週間で貸し出しするものを含めると、昨年度より増える見込み。7月の朝読書最終日にミニ「ブライバトル」を開催したが、一冊の本を最後まで読まずに「ブレ」を行った生徒が多数いた。	全校生徒が一斉に読書する時間を増やすことは難しいので、昼休みや放課後に個々で読書しやすい環境を整えていく。 閲覧室のレイアウトを変更し、利用しやすいようにする。 高校生が興味を持ちそうな本を、手に取りやすいように配架し、生徒の様子を見る。
2 生徒支援	a 年間を通した挨拶運動の実施と、清掃活動に対する生徒自己評価の実施 目標:不注意遅刻者数3.0人/日 清掃自己評価毎学期実施	校門での朝の挨拶運動を通して、生徒の変化(表情や一緒に登校する友達)に早い段階で気づくことができ、必要に応じて担任や教育相談と連携をとることができている。 不注意による遅刻者数は1学期1.6人/日、2学期(10月末現在)2.1人/日で、目標を上回ることができた。遅刻3回で指導(朝の挨拶運動)をすることにより、早い段階で指導が入り遅刻の常習化に歯止めがかかったものと思われる。 校内美化については美化委員会を中心に意識付けに取り組み若干の向上は感じられるが、顕著な向上には結びついていない。	挨拶運動は「風紀指導」という役割よりも「生徒の変化の気づき」という役割の方が大きくなってきている。挨拶運動を通して気になった生徒については、担当者が当該学年会に出席し、情報共有を図るとともに問題を抱える生徒の早期発見、早期対応に努めていく。 天候や気温によって遅刻する生徒が増加する傾向があるので、生徒会とも協力しながら不注意遅刻の減少に取り組んでいく。 校内美化の意識づけについては、清掃強調週間だけでなく日常的な活動の中でも行っていく必要がある。自身の清掃活動やゴミ分別等の行動を振り返る機会を増やし意識の高揚につなげる。
	b 生徒会行事(スポレク大会、学校祭)を主体的に実施できる体制の構築 目標:行事実施後の生徒満足度98%以上	学校祭の満足度は93.1%、ｽﾎﾟﾚｸ大会(春)の満足度は85.2%であり目標達成とはならなかった。しかし、学校祭では生徒会を中心に内容や会場の変更などに前向きに取り組み、過去最高の来場者数となった。生徒減少が進む中、学校祭での部門の見直しや、ｽﾎﾟﾚｸ等の行事における生徒の意見と教育的配慮のすりあわせが課題である。	生徒会行事を主体的に実施できる体制のため、生徒会執行部に加え、クラス委員長とのコミュニケーションを密にし、行事におけるねらいや内容が正しく伝わるように努める。 生徒会行事毎に行事の目的や個人の目標を書くシートを用意し、行事終了後に目的や個人の目標にどれだけ近づけたか等の振り返りの時間を設ける。教職員アンケートにおいても生徒の成長や課題についての質問をすることで、育てたい生徒像の実現に向け全職員で生徒の取り組みを見取る体制を整える。
	c 各部署や学年会との情報共有を密にし、必要に応じて有機的に各種サポートを実施 目標:不登校等による進路変更者数半減	相談室を移転・拡張し、来室しやすい場所にする事ができた。早期に新入生全員面談を実施し、関係づくりを強化することができた。同日にSOSの出し方講演会も実施し、ストレスの気づき方や対処法について伝えることができた。 また困り感のある生徒、保護者を早期にSCへつなぐことに努め多くの面談をコーディネートできた。 教職員向けに教育相談研修会を3回実施し、発達障がいや通級指導への理解を深めることができた。各部署、学年会との情報共有にも努めているが、不登校等による進路変更者数は微減したに留まっている。	1年生に進路変更者が多いことから、新入生全員面談、SOSの出し方指導の早期実施を継続し、1年生の学校生活への適応をサポートする。 新入生全員面談については、期間を空けて再度担当教員と話す機会を設け、つながりを強める。 SOSの出し方講演会は、学校生活に少し慣れた頃実施することで、生徒のが実際に抱え始めたストレスに気づき、対応できるようにする。 また、学年会や各部署との連絡体制の強化や学校生活アンケートの早期集約を通し、生徒の変化を速やかに把握することに努める。 さらにSCやSSW等、外部機関の協力を仰ぎ生徒の困り感の軽減に迅速に対応する。

令和6年度

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
3 進路支援	a 進路ガイダンス、オリエンテーション、LT等を通して生徒の進路意識を高める 目標: 進路ガイダンス、オリエンテーション等後の振り返り時間設定3回以上	1年次の進路ガイダンスの拡充や2年の業界研究会への全員参加など、早い時期から将来の職業を意識した上で進学や就職を検討する指導を進めている。 基礎力診断テストや各行事ごとに振り返りの時間を設け、それぞれの方向性を考える機会としているが、進学・就職ともに安易な選択に走らせないことが課題である。	進学に関しては、入りやすいところではなく入りたいところを目指す支援を徹底する。 就職に関しては、求人数が増加し選択の幅が広がっている現状であるからこそ、自分の適性を見極めと丁寧な企業研究を進める支援を行う。 年度初めに3年間の進路スケジュールを確認し、全校態勢で支援に取り組む。
	b クラス・生徒の実態に即した進路情報提供体制を構築する 目標: 若狭東ポータル情報更新月3回以上	若狭東ポータルを活用して各行事の案内などを適宜情報提供し、おおむね目標に達することができた。 3年生にはグーグルクラスルームを利用して、より細やかな指示を出すことができた。 保護者への情報提供の充実が検討課題である。	オープンキャンパスの案内を始めとして大量に届けられる情報については、ポータルや教室掲示を通して効果的に活用できるよう指導を進めたい。 2年生の2学期保護者会および保護者対象進路学習会（2月に実施予定）において奨学金に関する資料の配付と説明を行う。
4 地域連携	a ホームページ更新やPTAだよりを発行し、学校の情報を保護者に提供する 目標: HP更新90回以上、PTAだより発刊2回以上	学校ホームページは通算80回更新（11/18現在）し、学校の教育活動を保護者に公開することができた。 PTAだよりについては保護者の意見を取り入れ、写真を多く掲載することで生徒たちの活躍を伝えることができた。	ホームページだけでなく、若者の利用が多いSNSを活用した情報発信について検討する。 PTAだよりはQRコードの活用など限られた予算の中で効果的な情報発信を検討していくとともに著作権等についての職員研修会を開き法令遵守の意識高揚を図る。
	b 同窓会及び学校活動を会員へ広く広報し、同窓会活動への参加を活発にする 目標: 総会出席者数前年度比10%増	同窓会総会の出席者は前年度より3割削減となった。コロナ禍以降初的小浜市内開催でも参加者は少ない。地域行事を考慮して日程を決めたが、効果は薄かった。事前の支部長会議への参加者も少なかった。	前例踏襲を見直し、全国的な流れにも注目するなど、同窓会活動全体の抜本的な見直しが必要ではないかと思われる。 来年度当初から見直し議論を進め、7月に高浜地区で行われる総会において提案する。
5 専門農業系指導	a 地域社会や産業界と連携を深め、生産、調理・加工、販売に総合的に取り組める時間を設定する 目標: アグリマイスター認定者を2桁にする	現在手続き中であるが、アグリマイスターの認定者数は、目標の2桁に到達する見込みである。 しかし、合格率が低くなっている資格や検定があることが課題である。	一部の科目で少人数指導を取り入れたが、十分な効果は発揮できていない。 生徒の状況にあわせた指導方法について、教科会で検討して改善する。
	b 学校農業クラブ等での学習成果を発表し、上位大会に出場する 目標: 北信越・全国大会での入賞	日本学校農業クラブ全国大会では、平板測量競技で優秀賞を獲得した。 年次大会（県大会）では、意見発表会で優秀賞を獲得した。 しかし、意見発表やプロジェクト発表は、上位大会に進めなかったことが課題である。	意見発表やプロジェクト活動を充実させるためには、課題研究の充実が必要であると考えられる。 そのため、探究のサイクルを繰り返すことで内容の充実ができるように、課題研究の2年次での開講を検討して改善する。
6 専門工業系指導	a 実習を中心とした学習指導を充実させ、技術・技能・社会規範を習得させる 目標: 生徒用タブレットPCを活用した授業回数前年比10%増	高度な学習に対して、丁寧に分かりやすい授業展開を心がけ、ICT機器の活用や、実験などを取り入れながら学習支援を充実させたことで、技術・技能・社会規範を習得させることができた。 タブレット型PCも前年度比10%以上の活用を達成し、意欲的な学習活動を維持することができた。	タブレット型PCを今後も座学や課題研究に取り入れ、さらに分かりやすい授業展開と充実した学習支援を行い、基礎となる技術・技能等が習得できるようにする。 タブレット型PCによる振り返りや、スプレッドシート、スライド等の共同編集機能を活用し、生徒が主体的に学びに向かえるようにする。
	b 資格や検定試験の受験を働きかけ、取得できるように支援する 目標: ジュニアマイスター認定者3名以上	資格の意義や必要性を説くことで、受験意欲を持たせ、受験対策を行ったことでジュニアマイスター顕彰においてシルバー以上3名の認定者を出すことができた。 目標数は達成したものの、資格取得に積極的に挑戦する生徒が少なくなっており、如何にして増やすかが課題である。	資格取得の意義を明確に伝え、挑戦することの価値を説くことで、資格取得意欲の向上を図り、受験者を増やす。 資格取得支援においては、取得するための対策をより丁寧に時間をかけて行うことで、合格者を増やす。
7 専門商業系指導	a 将来を見据え、意欲的に資格取得にチャレンジさせる 目標: 全商1級3種目以上表彰者3名以上	将来を見据え、意欲的に資格取得にチャレンジさせたが、全商1級3種目以上表彰者は1名であった。 しかし、日商簿記検定2級に積極的に何度もチャレンジする生徒がいた。	将来を見据え、意欲的に資格取得にチャレンジさせる。 目標: 全商1級3種目以上表彰者2名以上。下級生のうちから、合格しやすい検定を受検することにより自信をつけさせていきたい。
	b 地域等との連携による探究活動(課題研究)を組織的に運営し推進する 目標: 課題研究等実践4本以上	地域社会（商店街、事業主、ボランティア団体、スポーツ団体）と連携し各分野で役割分担をして組織的に探究活動を行うことができ、課題研究実践を4本することができた。	地域社会等との関わり方は現状に満足せず深く、あるいは別の団体等とも関わりを深めていく。